

ヨハネによる福音書 14 章 1-9 節

私は道であり、真理であり、命です(3)

14:1 「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。14:4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」

14:5 トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにはわかりましょう。」14:6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

14:7 あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずですが。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」14:8 ピリポはイエスに言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。

はじめに

今日はヨハネ福音書にあるイエス様の”I Am...”という7つの断言のうちの、5番目の最後の部分についてお話しします。イエス様は、I Am...「私は私はある」と言う、出エジプト記3:14にある神様の名前を自分に対して使っています。「私は道であり、真理であり、命です。」というのが、一つの断言の中でどのように繋がっているかを復習してみましょう。これは、イエス様を神様への唯一の救いの道として信じて受け入れる人は、救われて初めて神様の真理としてイエス様を知り、それによって永遠の命を既に与えられているという意味です。ヨハネの福音書にある「命」と言うのは、永遠の命のことを指します。

ヨハネ20:30 「この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行なわれた。20:31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

当然、信じていない人でも、肉体にある命を持っていますがイエス様を信じる人は永遠の命を与えられるのです。

1. 永遠の命とはイエス様を知る事である

ヨハネ17:3 「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」

唯一のまことの神様を知ると言うのは、唯一の神の真理であるイエス様を通して知ると言う事です。今日、最初に読んだ箇所9節に書いてある通りです。

ヨハネ14:9 「イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うのですか。」

イエス様とその父なる神様を分けて知ることはありませんし、イエス様を個人的に知っているなら、唯一の父なるまことの神様を知っていると言う事なのです。

誰も、肉眼の目でイエス様を見る事が出来ませんが、信じて受け入れるなら、イエス様はその人の心の目を神様に対して開き、神様と結び付けて下さいます。ですから、これは頭だけで知識として知ると言う意味ではなく、個人的な関係の中で知ると言う意味なのです。

ルカ**10:21**「ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。

10:22 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、子がだれであるかは、父のほかには知る者がありません。また父がだれであるかは、子と、子が父を知らせようと心に定めた人たちのほかは、だれも知る者がありません。

10:23 それからイエスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたのしていることを見る目は幸いです。」

唯一のまことの神様とイエス様を知ることは人間の能力と学問的な勉強とは関係ありません。神様に対して子どものようにへりくだって、イエス様を唯一の救いの道として信じて従うことだけです。この方法が必要なのは、全ての人を全く平等にさせて、誰も誇る事が出来ないようにする為です。他人を見下す人間のプライドが大嫌いな神様ですから、全ての栄光が神様だけの物になる働き方を見ていたイエス様は大いに喜びに満ち溢れて感謝の祈りをささげたのです。

23節にある「あなたがたのしていることを見る目は幸いです。」というのは、肉眼の目で見ているという意味ではありません。その後でイエス様は死者の中からよみがえられて、弟子達にその栄光の姿をお見せになった時、双子の一人だったトマスは一回目に弟子たちと一緒にいなかったため、仲間から話しを聞いた時に、「自分の目で見て手で触らない限り信じませんと言いました。イエス様は一週間後に、彼らに二度目に表れて、その時トマスに向かって「どうぞ、触ってみなさい」と言いました。するとトマスはイエス様に向かって「私の主、私の神。」と言いました。そこでイエス様は次のように言われました。

ヨハネ**20:29**「イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

2. イエス様を知る素晴らしさ

ピリピ**3:8**「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくとと思っています。」

3週間前に「私は門です」について話しをした時に少しこの事に触れましたがもう少し拡大してお話しましょう。この箇所の話の流れですが、使徒パウロは自国民の中でも最高の教育と優秀な経歴を持って将来が保証されていた人物でしたが、その事も含めて全て、この世の最高の価値ある物でも、イエス様を自分の主として知っている事と比べたら、全てがゴミのような物になってしまうと言っています。と言うのはイエス様を知る事によって永遠の命を与えられ、その上にイエス様を知れば知るほど、更に自分の全てを捧げてもっと深く知りたくなるからです。これが人間の体験出来る最大の価値観の変化です。それがキリストの信者達の一番激しい迫害者から、キリスト教の最初の宣教師になるまでにパウロを作り変えました。

第二コリント**5:17**「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

パウロは実際に経験して書いたのです。

第一コリント**1:29-31**. 「これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。**1:30** しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとになりました。**1:31** まさしく、「誇る者は主にあって誇れ。」と書かれているとおりになるためです」。

最後の**31**節で使徒パウロは旧約聖書を引用しています。

エレミヤ書9：24「誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは主であって、地に恵みと公義と正義を行なう者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ。――主の御告げ。――」

神様を知らない人の間でよくある文句の一つは、神様は不公平だから信じません、というものです。もちろん、世の中を見たら、不公平だらけに見えてしまいます。でも、イエス様によって悟りを与えて、つまり、神様に対して心の目を開かれると、神様は何一つ不公平のままで終わらせないという真実が分かるようになります。人類の歴史で最大の不公平と言え、唯一の一度も罪を犯した事のない神のひとり子であるイエス様が不当な逮捕と拷問による取り調べを受け、最後に公開処刑によって、一番ひどい死に方だと言われている十字架刑で殺された事です。ですが神様はそのままでは終わらせませんでした。3日経ってから、イエス様を死者の中からよみがえらせただけではなく、天国の最高の地位を与えられ、天においても、地においても、いっさいの権威と力お与えになりました。先ほど見たトマスだけではなく、神は信じる全ての人にそれが見えるようにして下さいます。キリストの十字架と3日後の復活は神様の愛と正義を証明しています。その正義によって十字架で明確に示されている神様の愛が初めて分かるのです。

ガラテヤ6:14 「しかし私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して十字架につけられたのです。」

キリストの十字架を誇る事が出来ている人です。

ローマ1:16 「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。1:17 なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。」

それで私達は、イエス様のように不公平な扱いを受ける時にでも自分で解決をする為に人と争わないで、正しく裁く方に委ねて神様の時を待つ事が出来るのです。

ペテロ第一2:21-24。「あなたがたが召されたのは、実はそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。2:22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」ここにはっきり書いてありますがキリストの信者の中で多くの方は気がついていません。キリストの信者は不公平な扱いを受けたとき、人と争って解決するのではなくて、イエスの模範に習って神様の正義を信じて完全に委ねるのです。凄い事が書いてありますね。あなた方はその為に召されています。相手や加害者を赦しなさいと言われる人がそれを無理だと思ふ理由は、それが不公平な話しだと思っているからです。赦しなさいと言う神様の命令は絶対に不公平な話しではありません。私の正義を信じて私に任せなさいと言う意味です。イエス様の模範はそれです。「正しく裁かれる方にお任せしました。」それに従う人は開放されて全ての神様の祝福を受けるのです。

3. 永遠の命は今、現在の豊かな命である

ヨハネ10：10「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」

私達は「永遠の命」と言われたら、死んでこの世から離れて天国で永遠に生きる事を思い浮かべますが、明らかにイエス様は、それだけではなくて、今、この地上に居ながら、既に永遠の命を与えられていて、そしてその命の長さは計り知れないだけではなくて、その深さも計り知れないと言う事を言われています。この説教のシリーズの一番最初のメッセージで「私は命のパンです。」につ

いて話をしたときにも見たように、イエス様は次のことを言われました。「私に来る者は決して飢える事はなく、私を信じる者はどんな時にもは決して渴く事はありません。」

イエス様の与える豊かな命は、この世の中で唯一、私達の心や魂の一番深い飢え渴きを満たす事が出来る命です。

17世紀にフランスで生まれた有名な数学者であり物理学者、そして哲学者にもなったパスカルは次の言葉を使ってそれを認めました。「全ての人の心には神様の形になっている空白があります。」つまり、人の心にはこの世の物では決して満たせない部分があって、それは神様にしか満たせない部分なのです。イエス様しか与えられない新しい永遠の命は神様の命ですから、満たすことが出来ます。イエス様の与える命を持つ人は、この世の中で贅沢な生活や楽な生活を求める必要は全くありません。ですから、先程の2つ目のポイントでも言いましたが、人間の体験出来る最大の価値観の変化が起こります。この世の中で一番大事にしていた物はゴミのように見えるようになります。イエス様はこれを説明する為に色々なたとえ話しをしました。

マタイ13:44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。

13:45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。

13:46 すばらしい値うちの真珠を一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれを買ってしまいます。

イエス様の与える命を体験する時に私達は生まれて初めて完全な安らぎ、平安を経験します。喜びだけではなくて完全な安らぎは計り知れない宝物です。この世の事情に頼っている安らぎではありません。これを経験する為に天国に行くまで待つ必要はありません。

今でも、どこでも、自分の全てをイエス様に委ねたら、上から来る安らぎで満たされます。

私は政治犯として捕虜の収容所のような刑務所でそれを始めて経験して、そんなひどい環境でも魂は天国に引き上げられているように感じました。一番私の事を良く知っている双子の弟に釈放されてから会った時に言われました。「どうしてそこまで変わる事が出来たの?」と。もちろん、私は変わる事が出来た訳ではなくて、イエス様に変えられたのだと言う話しをしました。どんな人でも、どんな過去を持っている人でも、学歴や地位が全くない人でも、イエス様はどんな人でも、完全に作り変える事が出来ます。

まとめ

イエス様は「私は道であり、真理であり、命です。私を通してでなければ、誰も、父のもとに来ることが出来ません。」と言われ、何よりも、私は神の道であり、神の真理であり神の命ですと言っておられます。イエス様を信じて受け入れる全ての人の為に全てにそうなって下さい。イエス様以外の方がこのような発言をしていたら、最大の嘘つきになって誰も信じませんが、イエス様の話を実際に聞いた群衆は非常に驚いて、イエス様が律法学者のようにではなくて権威を持って教えておられる、つまり、社会的な地位による権威ではなくて天の御国の権威を持っておられると認めました。敵対していた人達でも、認めざるをえなかったのです。

ヨハネ7:46 「あの人は話すように、話す人は今だかつて話す人はありません。」